

初期研修カリキュラム

診療グループ[麻酔科]

カリキュラム責任者：福田 妙子

一般目標 (GIO) :

麻酔科学を通して、基本的な呼吸・循環、疼痛管理を安全かつ適切に行えるように、必要な知識・技術を習得する。

周術期医療チームの一員として必要な態度及びコミュニケーション能力を身につける。

個別目標 (SBOs) :

- 1) 患者・家族の周術期に対する不安を理解し、良好な医師患者関係を築くことができる。
- 2) 正確に術前医療情報を収集し、適切に問題点を評価し、安全な麻酔計画を立案できる。
- 3) 周術期における麻酔科医の役割を理解し、他科の医師、看護師、コメディカルと円滑なコミュニケーションをとりながら行動できる。
- 4) 麻酔に必要な機材・器具の点検および準備ができる。
- 5) 静脈確保、動脈穿刺、気道確保、気管挿管などの麻酔の基本手技を、正しく安全に行うことができる。
- 6) 麻酔に必要な薬剤の薬理作用と投与方法を具体的に述べることができ、適切かつ安全に投与することができる。
- 7) 麻酔に必要なモニタリングを理解し、患者の状態を正しく評価することができる。
- 8) 麻酔中の生理学的変化に対応した循環管理（輸液、輸血、循環系薬剤）ができる。
- 9) 麻酔中の生理学的変化に対応した呼吸管理（気道確保、呼吸器設定）ができる。
- 10) 患者の痛みに配慮し、術後疼痛管理を安全に実施することができる。
- 11) 発生頻度の高い合併症および危機的な合併症の対応策を学ぶ。
- 12) 自己学習の習慣を身につけ、EBM の概念を理解する。
- 13) 安全管理の概念と方法を身につけ、院内の危機管理に参画できる
- 14) 清潔操作、感染防止の方法を理解し、実施できる。

方略 (LS) :

* 指導医の監督の下で、患者の術前評価と麻酔計画の立案を行いカルテに記載する。

* 指導医の監督の下で、ASA1-2 の定時手術の麻酔をおこなう。

(静脈確保、マスク換気、エアウェイの選択と挿入、気管挿管、声門上器具の使用、胃管挿入、動脈採血およびカニューレション、くも膜下脊髄麻酔、薬物の静脈内投与、輸液、輸血、抜管、麻酔記録の作成)

* 指導医の指導により、周術期のモニタリングの方法を習得する。

(パルスオキシメータ、カプノグラム、呼気ガスモニタ、血圧、心電図、体温、観血的動脈圧、中心動脈圧、筋弛緩モニター)

* 術後回診を行い、問題点があれば指導医に報告して共に解決にあたる。

(術後痛、悪心嘔吐、かゆみ、呼吸・循環障害、神経障害、アレルギーの有無など)

* インシデントが発生した場合には、速やかに報告し指導医とともにレポートを作成する。

評価 (Ev) :

*担当した麻酔症例の内容を要旨としてまとめる。

*修了時にミーティングを行い、指導医と意見交換を行う。

(研修医から EPOC による評価希望ができれば対応する)